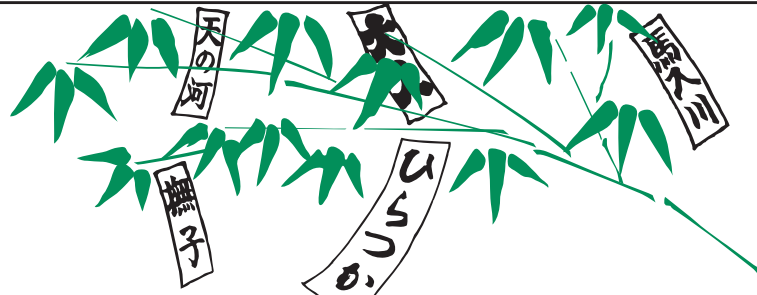




http://hiratsuka-rotary.jp



Be a gift to the world

2015~2016年度
国際ロータリーテーマ
Be a gift to the world
「世界へのプレゼントになろう」

HIRATSUKA R.C. WEEKLY

- 会長 常盤卓嗣 ● 副会長 片野之万 ● 幹事 高橋建二 ● 会報委員長 西村裕子 (2015~2016年度) E-mail:hiraturc@ma.scn-net.ne.jp
- 例会日 毎週木曜日 12:15~13:30 ● 会場 グランドホテル神奈中 平塚2F ● 事務局 平塚市松風町2-10 平塚商工会議所内
- 四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

第3033回例会 2016年1月21日 グランドホテル神奈中 週報第3033号

本日の卓話者ご紹介

(株)浜銀総合研究所
調査部 部長・主任研究員 北田 英治 様



卓話

「今年の経済展望—試される景気の自律的な回復力」

(株)浜銀総合研究所
調査部 部長・主任研究員 北田 英治

2016年の年明けから、金融マーケットが大荒れの展開となっている。その背景にあるのは、①中国経済に対する不安と、②原油価格の大幅な下落に対する不安である。まず中国の中央銀行（中国人民銀行）が年初から通貨人民元の切り下げを行ったことをきっかけに、中国経済への不安が高まり、中国の株式相場が大幅に下落。これを受けて投資家の不安心理が高まり、世界的に株安の動きが広がった。また、原油価格も足元で1バレル30ドルの節目を割り込み、約12年ぶりの低水準に陥っている。原油安の原因は、中国など新興国の需要低迷と、産油国が制御不能に陥った供給過剰である。米国のシェールオイルの生産が高水準で推移する一方で、OPEC（石油輸出国機構）は原油の減産で協調できない。足元のサウジアラビアとイランの対立激化は減産協調をさらに難しくしている。米国のシェールオイルの生産が減るまで、原油価格の上昇は見込みにくい状況にある。原油価格の下落は、株式市場では石油などエネルギー関連企業の株価下落をもたらしている。一方、外為市場で

は円高が進んでいる。これは中国経済の不安や過度な原油安への不安などを背景に、投資家がリスク回避姿勢を強める中で、低リスク通貨とされる円を買う動きが膨らんだためである。昨日、一時1ドル=115円台に円が上昇する場面もあった。

こうした状況を踏まえたうえで、日本経済に目を向けると、日本の景気は回復基調を維持しているものの、回復のテンポは極めて鈍い。輸出が一進一退の推移を続ける中で、個人消費がどうか景気を支えている状況にある。個人消費増加の背景には雇用・所得情勢の改善がある。「企業収益の増加→雇用や所得の増加→個人消費の増加→生産の増加→企業収益の増加」という好循環が景気の回復を支えており、こうした自律的な景気の回復力こそがアベノミクスの原動力となっている。ただ、足元の企業収益の増加は、①円安の進展と、②原油安によるエネルギーコストの低下によってもたらされた面が強い点に注意が必要である、そのため、企業は利益が増加したからと言って、その利益を積極的に設備投資や賃金の引上げに振り向ける状況には至っていない。その上、年初からの為替レートの円高傾向は、先に述べた好循環の起点である「企業収益の増加」を根底から揺るがす要因となる。為替レートがこのまま1ドル=110円に向かうようなことがあれば、景気の自律的な回復の動きが停止し、アベノミクス自体が行き詰る恐れすらある。だからこそ、足元で日銀の追加金融緩和など政策対応を期待する声が、政府・与党内からも高まっているわけである。冒頭にも述べたが、年初からの円高傾向は、投資家のリスク回避に伴う円買いによってもたらされている。何らかの政策対応などで市場の不安心理が後退すれば、日米金利差（米国-日本）の拡大を受けて、為替レートは再び円安・ドル高基調で推移すると予想される。足元の株式相場は企業業績から見て売られすぎの面もあり、市場が落ち着いてくれば割安感からの買いが入ると見込まれる。個人的には、今年、日経平均株価が再び2万円の舞台を試す場面が訪れるのではないかと予想している。

<出席報告>

本日	1月21日	会員数	61名	対象者	58名	出席者	43(41)名	出席率	71.67%			
前々回	1月7日	会員数	61名	対象者	58名	出席者	46(43)名	出席率	79.31%	MUP	0名	計 46名 修正率 79.31%

卓話者プロフィール

きた だ えい じ
北 田 英 治 様

浜銀総合研究所 調査部 部長・主任研究員

●経歴

昭和61年4月 横浜銀行入行
平成3年3月 (株)日本経済研究センターへ出向(1年間)
平成3年8月 証券アナリスト取得
平成6年2月 株式会社浜銀総合研究所へ出向
平成18年7月 同社調査部 部長・主任研究員
現在に至る

●活動内容

おもにマクロ経済・金融マーケットの分析を担当。浜銀総研「はまぎん金融・経済レポート」の作成などに携わる。神奈川県統計報告調整審議会委員。日本経済研究センター「ESPフォーキャスト調査」のレギュラー回答者を務め、2004年度と2007年度の優秀フォーキャスターに選ばれる。

FMヨコハマ「MORNING STEPS」の経済コーナーに、「ハマのマナーコンシェルジュ」として毎週レギュラー出演中。

<委員会報告>

●創立60周年新規事業特別委員会 清水 裕委員長

委員会では次年度に迎える創立60周年の記念として始める新規事業の検討を重ね2年前に卓話でお越しの『JIA』の活動を応援しようということになり、本日『JIA』より3名にお越しいただきました。

本日は当クラブの例会の様子を知って頂く目的と、改めて『JIA』関係者の自己紹介をお願いしたいと思います。

Gakuvo センター長 西尾雄志様 プロフィール

(ハンセン病制圧活動サイトより抜粋)

1974年三重県桑名市生まれ。日本財団学生ボランティアセンター代表理事。早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター客員准教授。二松学舎大学、聖心女子大学などで、ハンセン病問題やボランティアの振り返りに関する講義を担当。20歳の頃、フィリピンのハンセン病コロニーでの人口調査のボランティアで初めてハンセン病の問題にふれる。29歳の頃、中国のハンセン病快復村での活動を仲間と一緒に立ち上げる。ハンセン病問題と学生らの活動に関してまとめた書籍として、『ハンセン病の「脱」神話化—自己実現型ボランティアの可能性と陥穽』（皓星社）、『承認欲望の社会変革—ワークキャンプにみる若者の連帯技法』（京都大学学術出版会・共著）がある。趣味は散歩と読書（ノンフィクション）。

NPO 家-JIA- 事務局長 原田燎太郎様 プロフィール

(ハンセン病制圧活動サイトより抜粋)

1978年、神奈川県生まれ。早稲田大学卒業後、2003年4月に中国ハンセン病快復村リンホウ村（広東省潮州市）に移住。2004年8月、ハンセン病快復村でのワークキャンプ（労働奉仕ボランティア）をコーディネートする中国のNPO「家-JIA-」を設立。日本だけでなく

中国での講演実績も豊富で、その活動は内外から大きな評価を得ている。2009年、広州ボランティア協会（共産党青年団広州委員会所属協会）により外国籍の個人としては初となる「十大傑出志願者」にも選出された。

NPO 家-JIA- 事務局 菅野真子様 プロフィール

(広東ジャピオンコラムより抜粋)

ハンセン病快復村で、ワークキャンプ活動（労働奉仕のボランティア）を行う家-JIA-で、営業と広報を担当。留学で北京に滞在していた時、同団体の事務局長・原田さんのブログを見つけ「この人会ってみたい」と広州を訪れた。2008年1月、湖南省にある快復村でのワークキャンプに初めて参加する。

<幹事報告>

◎米山奨学金終了学生終了会／歓送会開催のご案内

日時：2/14(日) 15:00～16:00 終了式
16:00～18:00 歓送会

場所：藤沢商工会館

◎インターアクトー泊研修会

日時：3/26(土)～27(日)

場所：厚木市七沢自然ふれあいセンター

*3/26 飯塚委員長が参加します。

<メイクアップ>

0名

<本日のスマイル>

11名

<ゲスト>

5名

北田英治様（卓話者）

西尾雄志様（早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター）客員准教授

原田燎太郎様（JIA 事務局長）

菅野真子様（JIA 事務局）

柳川信男様（入会前ゲスト）

<ビジター>

1名

高橋烈雄様（平塚湘南 RC）

<卓話・行事予定>

2月11日(木) 休会(祝日)

18日(木) 『温故知新—2』 升水一義

25日(木) 入会記念卓話 瀬尾光俊会員

3月 3日(木) 職業奉仕委員会・会員健康診断

10日(木) ㈱研進（障がい者就業支援団体）
代表取締役 出縄貴史様

<市内例会変更>

平塚西 2/24(水) 休会